



身近な 生きもの 調査



身近な生きもの調査とは？

「緑の国勢調査」は第6回を実施中

みなさんにご参加いただいた「身近な生きもの調査」は、環境省が昭和48(1973)年度より、おおむね5年ごとに実施している「緑の国勢調査」の一環として行いました。

この「緑の国勢調査」は、正式には“自然環境保全基礎調査”といい、植生や動植物の分布、海岸や河川、湖沼の改変など、日本の自然環境のさまざまな項目を調べています。この調査は自然環境の現状を明らかにすること、調査の積み重ねによって自然の変化を把握すること、自然環境保全におけるいろいろな施策のための基礎資料を提供すること、などを目的として実施しています。

「身近な生きもの調査」は今回が4回目

広く一般の方々に参加していただく「身近な生きもの調査」は、昭和59(1984)年度に初めて実施し、2回目の平成2(1990)年度ではさまざまな動植物を対象に分布を調べました。また、3回目は、調査テーマを絞って平成7(1995)～9(1997)年度に「'95セミのぬけがら調査」、「'96ひつつきむし調査」、「'97ツバメの巣調査」を実施し、実物や写真を送っていただくことで、信頼性の高い全国の貴重な分布情報を得ることができました。

そして、今回は4回目！みなさんにご参加いただいた「身近な林調査」では、平成12(2000)年度の“秋冬調査”と13(2001)年度の“春夏調査”の1年間をとおして実施しましたが、3回目までの調査とは趣向を変えて、林の置かれている環境や、そこにすむさまざまな動植物について調べました。

今後、どのような調査を実施するのかは、現在検討を行っているところです。次回調査が決まりましたら、^{せいぶつたようせい}生物多様性センターのWebページ(<http://www.biodic.go.jp/mijika/>)でお知らせいたします。

本書はつぎの方々の協力を得て作成しました。

[企画検討] **自然環境保全基礎調査検討会
身近な生きもの分科会**

(座長) 大場 秀章(東京大学総合研究博物館)
大森 雄治(横須賀市自然・人文博物館)
浜口 哲一(平塚市博物館)
望月 賢二(千葉県立中央博物館)

[執筆協力] 浜口 哲一・大森 雄治・槐 真史

[同定協力] 浜口 哲一・大森 雄治・槐 真史

[資料提供] (独)農業環境技術研究所
生物環境安全部

[標本協力] 豊かな森づくりのための
レディースネットワーク・21

[写真協力] 身近な生きもの調査2000-2001参加
者の方々(本文参照)・槐 真史・大森
雄治・芝池 博幸・橋本 幸則・浜口
哲一・松久保 晃作・渡邊 幹男・斉藤
秀生

[植物図版] 中島 睦子

[イラスト] 槐 まゆみ・松田 けんじ

[デザイン] (株)artpost

[編集・制作] (財)自然環境研究センター

第6回 緑の国勢調査 身近な生きもの調査2000-2001 身近な林 調査結果

平成14(2002)年3月 第1刷発行

発行
環境省自然環境局生物多様性センター
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1
TEL 0555-72-6033 FAX 0555-72-6035
e-mail mijika@biodic.go.jp
Webページ <http://www.biodic.go.jp/mijika/>

(本パンフレットの全部または一部を無断で転載・複製複製(コピー)することを固く禁じます。)

